

彼方【かなた】

校長通信

H24.4.4

Vol.1

今年度より我孫子市立湖北中学校長として着任しました田中聡です。昨年度まで我孫子市教育委員会指導課長として、「主体性、創造性を持った児童・生徒の育成」を目指し、学校現場の指導・支援に取り組んで参りました。湖北中学校は、教育委員会に赴任する前に教頭として仕事をさせて頂いた学校なので、慣れ親しんだ学校に着任できたうれしさと同時に「地域の学校」の校長としての重責を感じています。

湖北中学校は、多くの人材を排出してきた伝統校です。その伝統校としての歴史をつないでいかなければならないと考えています。それは、本校の良さを次の世代に語り継いでいくことだと考えます。

卒業生が十年後、二十年後に大人になり、親になったとき、我が子に語れる「伝説の学校」にしていかなければならないと思っています。

「私の中学校時代は、みんなが笑顔で、通うだけで楽しくてしかたなかったなあ。いつもみんなで助け合い、つながっていたなあ。」と自分の母校を熱く語れる学校にしたいのです。

教師も生徒も保護者も地域もみんな集って力を合わせてつくりあげる地域に根ざした学校、「みんなのできる地域の学校」であり続けることを

肝に銘じ、「伝説の学校」になるまで高めていけるよう学校運営に尽力したいと考えています。

「伝説の学校」の教育目標は、「自主貢献」

高度経済成長時代が過ぎ去り、長い低成長時代に突入して久しくなりますが、消費時代の人材育成は、マニュアル型の人材育成でした。言われたことをやり抜くバイタリティ溢れる人材が望まれました。その後 Reduce:リデュース（減らす）、Reuse:リユース（繰り返し使う）、スパイラルで持続可能な成熟した社会を支える自主的に創意工夫できる自律型の人材が望まれるようになりました。どのような場面でも、自ら適切に判断し、最善の行動がとれる自力解決型の人材を育成していかなければならないということです。特に3・11の東日本大震災以降は、「日本人の精神性が問われてきました。本来、人間の脳に書き記されている「誰かのためにできることは何か？」という分かりやすい問いに対して行動化できるかどうかを試されている時代でもあります。

このような時代背景を考え、一人一人の生徒が、適切に状況を判断し、自分の所属する集団をより高めるために自ら行動し、助け合い、貢献できる生徒になって欲しいと考え、学校教育目標を「自主貢献」としました。

それは、教育の目的である「人格の完成と社会性の育成」（人格の完成をめざし、平和的な国家及び社

会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成）を追求していくことに他ならないと考えます。

人は一人では生きられません。人とつながり、自然の中で生かされています。どの人も、誰かのために、所属する集団のために、自ら果たすべき役目を持っていきます。そして、生かされていることの意味を考え、その役割を果たすことで自分の良さを発揮し、自己実現するのです。

家族という小さな社会から国家、世界という大きな社会まで人が所属する集団は様々です。その中で、人とつながり、助け合い、改善のために一歩踏み出すことが、よりよく自分の役割を果たすことにつながるのです。

人のために自分から一歩踏み出し、自分の役目を果たせる人材を育成することは、リーダーシップ教育を推進し、「自主的に行動し、集団社会に貢献できる生徒」を育成することに他ならないと考えます。

表題を「彼方【かなた】」としたのは、遥か彼方、将来を見つめ、決してブレない一歩を積み重ねながらゴールを目指したいという願いからです。（逆から読むと「たなか」になるというのも…）校長としての願いを定期的に配信していきたいと思えます。どうぞよろしく願います。